

(別添)

(各賞における順序は申請の順)

【日本鉄道賞】

東海旅客鉄道株式会社、西日本旅客鉄道株式会社 (愛知県名古屋市、大阪府大阪市)

「最新技術という、おもてなし。新しい新幹線 N700 系。」

(選考理由)

東京～新大阪間の時間短縮、車内静粛性のアップ等快適性向上による利用者利便の向上と省エネによる環境負荷軽減に極めて大きく貢献した。



N700 系車両

【日本鉄道賞表彰選考委員会特別賞】

日本貨物鉄道株式会社 (東京都千代田区)

「紙と経験と人間の調整力」から「システムによる自動化」へ

(選考理由)

無線 I C タグや G P S の活用等による鉄道貨物の I T 化により、荷票を廃止する等鉄道貨物業務を大きく効率化するとともに、鉄道貨物のサービス向上による利用促進を通じて環境負荷低減にも特に大きく貢献した。



新システム IT-FRENS の登録画面

【日本鉄道賞表彰選考委員会特別賞】

東日本旅客鉄道株式会社（東京都渋谷区）

「世界初のハイブリッド鉄道車両の開発」

（選考理由）

世界で初めてハイブリッドディーゼル車両を実用化し、ディーゼル車両の環境負荷軽減に特に大きく貢献した。



ハイブリッド車両を採用したキハ E200 系車両

【表彰選考委員会による特別表彰】

〔新輸送サービス技術賞〕

北海道旅客鉄道株式会社（北海道札幌市）

「先人達が挑戦してきた「線路と道路を走行可能な『夢の乗り物』」を世界初の技術で実現

（選考理由）

線路と道路をシームレスに結び、鉄道輸送のコストを低減するなど新たな輸送サービス技術の実現に貢献した。厳しい需要減少と財政の悪化に苦しむ地方において、鉄道を存続・活用する一つの方策を提案したものとして高く評価される。



DMV（線路走行時）

DMV（道路走行時）

〔日本鉄道賞表彰選考委員会地方鉄道活性化賞〕

阿武隈急行株式会社（福島県伊達市）

「時代やニーズは、潜在需要喚起の指南役」

（選考理由）

地域資源を活かした企画切符（花見山きっぷ）を販売し、定期外の利用者数対前年度比プラスを記録するなど地方鉄道活性化に貢献した。

また、駅に無料駐車場を整備して、パーク＆ライドを促進するなど、開業当初から地域とともに地道な利用促進努力を続けてきたことも評価される。



花見山きっぷ

〔日本鉄道賞表彰選考委員会鉄道利用促進賞〕

名古屋市交通局（愛知県名古屋市）

「大好評!! 全国初の地下鉄環状運転と格安ドニチエコきっぷ

～公共交通の復権に向けて!!～」

（選考理由）

平成16年10月日本で初めての地下鉄の環状運転開始と格安（通常の3割引）の1日乗車券の販売により、平成18年度には万博のあった平成17年度を超える過去最高の乗車人員を記録するなど鉄道利用の促進に貢献した。



ドニチエコきっぷ